

紙 上 美 術 館



伊藤富太郎《竹馬の友》 いととみたらう・ちくばのとも

(高崎市美術館蔵)

テレビゲームやインターネットなど無かった昭和のころ、子どもたちは寒さにも負けず元気に外で遊んでいた。写真の背景には、現在の近代的な建物や道路交通網などは見えない。伸び伸びと遊べる環境があそこにはあった。伊藤富太郎(1909～2000)は、生まれ育った高崎の昭和を撮り続けた写真家である。1989年に高崎市文化賞を受賞した。現在、市美術館では「シネマの世界 - 石井忠樹映画ポスターコレクション - 」を開催中。懐かしの映画ポスターとともに伊藤が撮った古き高崎の写真も展示している。

編集後記

今号では、犯罪から子どもたちを守る地域の活動を紹介した。どの地域も、何も起こらないことを願うだけで、特別なことを期待している訳ではないが、特集の最後に紹介した倉賀野小児童の作文を読むと、子どもたちは、自分たちが周りから大切に思われていることを感じ取っているのが分かる。子どもたちを守る活動は、未来を担う彼らを育てる活動にもなっている。(ふ)

高崎♥家族の物語



今月の家族 父・太田 努さん (倉渕町権田)
母・太田ゆかりさん (倉渕町権田)
子・太田茂樹さん (倉渕町権田)
子・太田優真さん (倉渕町権田)

第4話「駐在所」

「キャッチボールもしてやれないから」と苦笑する努さん。仕事柄、土日の休みはほとんどない。茂樹君と優真君に野球をしてほしいとは思うが「なかなか親の思い通りには...」。他人の子も自分の子と同じようにしかってくれる「顔の見える」地域のつながりに、ゆかりさんは「みんなで子どもを育てる」空気を感じている。そんな地域にとって、駐在所はなくてはならない存在。人と人がつながる地域の中で「厳しくて優しい」お父さんの働く背中が、きっと、兄弟に大切なものを教えてくれるはずだ。

Takasaki Family #44

